

平成 29 年 4 月 21 日

長岡市教育委員会（定例会）会議録

長岡市教育委員会

1 日 時 平成 29 年 4 月 21 日 (金曜日)

午後 4 時から午後 4 時 40 分まで

2 場 所 教育委員会会議室

3 出席委員

教育長 高橋 譲 委 員 鷲尾 達雄 委 員 羽賀 友信
委 員 青柳 由美子 委 員 大久保 真紀

4 職務のため出席した者

教育部長	金澤 俊道	子ども未来部長	波多 文子
教育総務課長	曾根 徹	教育施設課長	中村 仁
学務課長	佐藤 正高	学校教育課長	竹内 正浩
子ども家庭課長	大矢 芳彦	保育課長	大野 宏
青少年育成課長	伊津 芳彦	中央図書館長補佐	梅沢 一茂
科学博物館長	小熊 博史	学校教育課主幹兼管理指導主事	高橋 和久
学校教育課主幹兼管理指導主事	柳沢 学	学校教育課主幹兼管理指導主事	神林 俊之

5 事務のため出席した者

教育総務課庶務係長 佐藤 裕 教育総務課庶務係 内藤 貴幸

6 議事日程

日程	議案番号	案 件
1		会議録署名委員について
2	第 22 号	附属機関委員の委嘱について

7 会議の経過

(高橋教育長) これより教育委員会 4 月定例会を開会する。会議に入る前に、金澤教育部長から発言を求められているので、許可する。

(金澤教育部長) 長岡市教育委員会において、事務局職員の人事異動に伴い新体制となったので紹介する。

【金澤教育部長より、曾根教育総務課長・佐藤学務課長・山田中央図書館長・伊津青少年育成課長・神林学校教育課主幹兼管理指導主事・高橋教育センター長の紹介】

◇日程第 1 会議録署名委員について

(高橋教育長) 日程第 1 会議録署名委員の指名を行う。会議録署名委員については、長岡市教育委員会会議規則第 19 条第 2 項の規定により、鷲尾委員及び大久保委員を指名する。

◇日程第 2 議案第 22 号 附属機関委員の委嘱について

(高橋教育長) 日程第 2 議案第 22 号 附属機関委員の委嘱についてを議題とする。事務局の説明を求める。

(曾根教育総務課長) 長岡市図書館協議会委員について、前委員の退任に伴い、新たな委員を委嘱するものである。任期は前任者から引き継いだ平成 30 年 6 月 30 日までである。また、長岡市文化財保護審議会委員についても前任者の退任に伴い、

新たな委員を委嘱するものである。任期は前任者から引き継いだ平成 30 年 3 月 31 日までである。

(高橋教育長) 質疑・意見はあるか。

(高橋教育長) これより採決に移る。本件は、原案のとおり決定することに異議ないか。

[「異議なし」と呼ぶ者あり]

(高橋教育長) 異議なしと認める。よって、本件は原案のとおり決定した。

(高橋教育長) 以上をもって、本日の議案の審議については終了した。

(高橋教育長) 次に、協議報告事項に移る。最初に、教育委員会関係工事等の入札状況について 事務局の説明を求める。

(中村教育施設課長) 堤岡中学校大規模改造工事と同校大規模改造機械設備工事では、いずれも予定価格が 1 億 5 千万円以上であり、契約について議会の議決が必要であったため、3 月議会の最終日に議案として提出し議決されたものである。同校は今後も生徒数の増加が見込まれるため、現在、7 月末の完成を目指し、福島江側に 3 階建て鉄筋コンクリート造りの校舎を増築中である。既存校舎も老朽化が進んでいるため、大規模改造工事を行い教育環境の向上を図る。また、給食室も増築・改修を行い、衛生環境や作業環境の向上を図る。入札状況について、大規模改造工事施工者は渡長・池田・長岡土建三社共同企業体であり、契約工期は平成 31 年 3 月 31 日まで、契約金額は 682,084,800 円である。機械設備工事施工者は、長岡総合・今井設備二社共同企業体であり、契約工期は平成 31 年 3 月 31 日まで、契約金額は 159,840,000 円である。

(高橋教育長) 質疑、意見はないか。

(高橋教育長) 増築校舎の 7 月末完成とは今年の 7 月か。

(中村教育施設課長) 今年である。昨年工事に着手した増築校舎の完成が今年の 7 月末であり、今回の大規模改造工事の工期が平成 31 年 3 月 31 日までである。

(高橋教育長) 他に質疑、意見はないか。

(高橋教育長) 次に、小国小学校の開校について 事務局の説明を求める。

(佐藤学務課長) 3つの小学校が統合され新しい小国小学校が誕生し、4月10日に開校式が行われた。当日は好天に恵まれ、残雪もなく晴れやかな雰囲気の中での式典となった。市長や教育長から参列頂き、全校児童164人、うち新入学児童27人が出席し、来賓として全町内会の代表を含めて60人ほどお迎えした。校歌の披露においては、旧小学校ごとに練習してきた成果が発揮され全員で元気いっぱい歌っていた。また、児童代表で山岸末奈さんが喜びの言葉を発表した。堂々として終始落ち着いており、よく届く声での発表で素晴らしく、全体的に感動的な開校式であった。

(高橋教育長) 校旗についてだが、新学校のスタートにふさわしいずっしりとした重みがあり立派な校旗であった。マークは小国の特色や旧小学校のものを加味して決定したものである。校歌についてだが、歌詞音楽共に思わず口ずさみたくくなるような良い歌で子供たちも歌いやすそうであった。

(青柳委員) 校歌を聞きたいのだが、CD化などの予定はあるか。

(金澤教育部長) 今はまだその予定はない。

(高橋教育長) 質疑、意見はないか。

(鷲尾委員) 統合前の学校の伝統行事や特色のある教育などを、どう引き継いでいくのか。

(金澤教育部長) 上小国の和紙や太鼓など、統合準備段階においてそれぞれ披露しあい共有していた。それを今後教育活動にどう反映させるかは学校が検討していくこととなる。統合後、それらがなくなるという事ではなく、それらを踏まえて新しい小国小学校を作っていくという意識を持っている。

(高橋教育長) 他に質疑・意見はないか。

(高橋教育長) 次に、平成28年度中学2年生のピロリ菌検査実施結果について事務局の説明を求める。

(佐藤学務課長) ピロリ菌検査は、胃がん対策の一環として平成28年度から新規事業として実施したものであり、検査実施結果報告は今回が初めてである。平成28年度の中学2年生のうち90.4%の生徒が希望して受検した。そのうち要精密検査率は4.7%の102人であったが、そのうち精密検査を受検したのは80人であった。精密検査受検者のうち陽性等となった生徒は66人であり、除菌治癒した生徒

は 63 人で全員が 1 次除菌で成功した。その際の副作用については、発疹が 1 名、下痢が 2 名いたがいずれも入院には至らなかった。昨年度行った事前の保護者説明会において、保護者から、除菌治療は具体的にどのようなものか、中学生で除菌すると胃がんを防ぐことができるのか、子どもがピロリ菌検査で陽性だった場合は親も検査したほうがよいか、という質問が出た。回答として、1 週間錠剤を飲むという治療法であること、ピロリ菌の感染は 4・5 歳までと言われており中学生で除菌すればその後感染することはないだろうということ、ピロリ菌は親からの感染が主であるため親も検査した方が良いという医師の見解があること、を説明した。胃がんはピロリ菌が原因であり、昔から言われている家系や遺伝によるものではない、という医師の見解も保護者に説明した。

(高橋教育長) 質疑・意見はないか。

(羽賀委員) 要精密検査のうち、受検しない事を選択した人の理由は何か。

(佐藤学務課長) 今回の検査実施後の長岡市医師会と学務課、健康課との振り返りにおいて、やはり不安があったり、いずれ受けようという理由で受検しなかったのではないだろうか、という意見があった。一方で、長岡市医師会としては、要精密検査において受検を催促することは反対であり、その判断は親に委ねるべきという見解があった。

(青柳委員) 1 次検査は血液検査だと思うが、精密検査はどのような検査なのか。痛かったり、身体への負担が大きいものだと、その点が理由で受検しないのではないのだろうか。

(佐藤学務課長) 精密検査は便を調べると聞いており、再度採血するものではない。

(金澤教育部長) 自身で検体を検査機関に持っていかなくてはならないので、面倒で手間に感じる面もあったかもしれない。

(高橋教育長) 要精密検査結果の情報管理はどうなっているのか。

(佐藤学務課長) 結果は本人と家族のみに知らせている。

(高橋教育長) 検査結果は個人情報であり、それが漏れることによっていじめにつながらないように、厳重に管理してほしい。

(高橋教育長) 次に、長岡版ネウボラの拡充について～妊娠・出産から育児まで切れ目のない子育て支援～について 事務局の説明を求める。

(大矢子ども家庭課長) 長岡版ネウボラは、気軽に相談できる幅広い窓口を設けていることがひとつの特徴である。どこに相談しても産後ケアコーディネーターと保健師が寄り添い継続して支援しており、妊娠期から出産後の早期の支援に力を入れてきた。その中で産後デイケアる〜む・ままりらにおいて、具体的な育児方法を学びたいというニーズが高いことがわかった。それに答えるための事業として、今年度5月8日のオープンを目指し、新規事業である産後デイケアる〜む・ままナビを開設するに至った。ままりらは、助産師や保健師が妊産婦の心と体のケアなどいわゆる健康面においての支援を行うものである。ままナビは保育士が育児の方法を親に教えて一緒に学んでいくものである。そして、その後の子供のスムーズな入園・親の職場復帰の支援にも結び付いていくと考えている。

(高橋教育長) 質疑・意見はないか。

(大久保委員) ままナビの開催園として蔵王保育園を選んだ理由は何か。ほかに候補園はあったか。

(大矢子ども家庭課長) 委託先の選定におけるこちらの要望として、専任の保育士を確保してほしいという点と、園内ではなく独立した場所で事業を行ってほしい、という点があり、それを満たす園が蔵王保育園のみであった。

(羽賀委員) ネウボラの稼働率について、状況を知りたい。

(大矢子ども家庭課長) ままりらにおいては、昨年度1,500組の利用があった。1年間に長岡市で生まれる新生児が2,000人弱という点を踏まえると、高い利用率だと考える。1日最大5組を受け入れており、連日満員の状況である。

(高橋教育長) ままりら・ままナビというネーミングについてだが、どのような期待や意図が含まれているのか。

(大矢子ども家庭課長) ままりらにおいては、出産後の心身の負担が大きい「まま」が、家庭的な雰囲気の中で「リラックス」し早く今までどおりの生活に戻れるように、という意味が含まれている。ままナビにおいては、「まま」と「まなび」が組み合わされており、ままが育児を学ぶという意味が含まれている。

(波多子ども未来部長) ままナビには、ナビゲートしていくという意味も込められている。

(羽賀委員) 子育て支援として重要な役割を果たしているので、待機期間・待ち時

間が長くなると良くないのではないか。

(大矢子ども家庭課長) ままリラでは、助産師が待ち時間等がないように対応している。ままナビにおいては、4月25日発行の市政だより5月号において情報を掲載した。5月1日から予約をスタートし、予約状況を確認しながらきめ細やかに対応していきたい。

(高橋教育長) ままリラは予約制であるため、その場所に行って待ち時間があるわけではなく、予約を取って自分の都合の良い時間に行くことができる。

(波多子ども未来部長) ままナビについては、事業のニーズが多ければ横の展開も考えている。

(青柳委員) 先ほどままリラの利用組数が1,500組とあったが、それは述べ組数と考えてよいか。

(大矢子ども家庭課長) 延べ組数である。実数は358組である。

(高橋教育長) 親と同居をされていて親に子どもを一時的に預けられる家庭もあるだろうが、そのような環境下ではなく、転勤があり近くに親や知り合いもおらず、子どもにつきっきりのような状態の家庭もある。そのような場合、子どもの面倒を一時的に助産師にみてもらいながら、親がアドバイスを得たり安心感を得たりすることにより、自宅に帰った時に育児や家庭に対して心に余裕が生まれる。そういった事業が今までなかった。保育園に通園している場合や、子育ての駅に行くことができる場合は園長や保育士に相談できるが、そうではない人たちに対して子育ての支援をしたいと考えて新しい制度を始めたら、予想以上の需要があったというのが現状である。それだけ、ひとりで子育てをしている環境が長岡市にあるということであり、それを解決していかなければいけない。その流れを汲んでままリラからままナビに発展した。実際に事業に取り組んで成果を踏まえたくて発展させたり、同機能を別の場所で行ったりするなど施行錯誤して新しいことをやってみるとというのがネウボラの考え方である。

(高橋教育長) 次に、平成29年度長岡市成人式について事務局の説明を求める。

(伊津青少年育成課長) 5月3日に5地域、8月14日に山古志地域、8月15日に5地域において実施し、対象者は2,570人である。

(高橋教育長) 連休の忙しい時期であるが、教育委員もぜひ地域に行き、成人した

子供たちの顔を見てきて頂きたいと思う。

(高橋教育長) 次に、催し案内について、補足説明のあるものは挙手願う。

(金澤教育部長) 栃尾美術館において、山田博行さんの写真展があるのでぜひ足を運んで頂きたい。

(高橋教育長) 山田博行さんは造形大学の准教授をされており、写真にも一生懸命取り込んでいる。オーロラの写真もあると聞いているので、迫力のある良い写真を見に、ぜひ足を運んで頂きたい。

(金澤教育部長) 5月20日にギャラリートークもある。

(高橋教育長) 次に、配布されたチラシについて、補足説明のあるものは挙手願う。

(高橋教育長) 科学博物館において山菜の催しを行うのは珍しいのではないか。

(小熊科学博物館長) 山菜は春の植物であるので、標本を使用し紹介をする。6月まで開催しているので、ぜひご覧頂きたい。

(高橋教育長) 昨日ケーブルテレビで馬高縄文館の연구원の方が展示について説明をしているのを見た。とても見ごたえがあり、説明を聞いていて興味が湧いた。縄文・弥生時代の展示など、それを見た多くの方々が見に行くのではないか。

(小熊科学博物館長) 小学6年生が歴史の学習で春先に来館することがある。縄文時代と弥生時代を比較した学びを進めていくにあたり、長岡版の比較展示をしている。また、一般の方が見てもわかりやすい展示構成にしていきたいと考えている。

(高橋教育長) 学校の授業にあわせて教育委員会の施設組織が事業・展示を組み立てることは大事であり、教育施設の一つの役割だと考える。今までもよくやっているなど感じているが、これからも続けて行ってほしいと願う。

(高橋教育長) その他に報告事項、報告はあるか。

(高橋教育長) 以上で本日の定例会を閉会する。

会議の次第を記載し、その相違ないことを証するために署名する。

長岡市教育委員会教育長

長岡市教育委員会委員

長岡市教育委員会委員